



# 元気っ子

No 321 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

令和6年度4月の元気っ子で、「園庭の桜も咲き始め、・・・」と冒頭で書かせて頂いたのですが、その園庭の桜の木が強風(?)で根元からぼっきりと折れてしまいました。大切にしていた桜の木だったので、とても残念ですが、これも自然の摂理として受け入れなくてはいけないと自分に言い聞かせています。

令和6年度4月から年長児の「お御堂参拝」を再開しました。最初に短いお勤めをした後、大人からのお話を聴きます。内容は主任が今月のコラムに書いていますので割愛しますが、ねらいは、子どもたちがこういった環境を通して、人の話に耳を傾けたり、共感する力を育むことです。何人かの子はすでにこの力が育っている様子が伺えました。恐らく、これらの子は乳児期にご家庭においても大人が子どもの自己主張を認め、思いを受け止めてもらってきた経験が豊かなのだらうと思います。

よく子どもが落ち着かなかったりするのは、就学前施設において子どもを自由にしすぎるからいけないとか、我慢をさせることがないからいけない、きちんと座らせることをしないからいけないという話を耳にします。ですが、問題はそういうことではない気がします。

本来、子どもの「発達」は個々によって早い遅いがあります。個性といってもいいかもしれません。ですが、発達の段階、順序は一律に皆同じです。ですので、保育園の行事で、お子さんの現在の発達段階をきちんと伝え、大人はその発達の次を予測しながらご家庭においても、その発達が促される環境をつくってもらえるようにという思いがあります。前段でのお御堂参拝の話に戻りますが、自分の感情をコントロールする力、自分を律する力、つまり自己制御力によって「今は人の話を聴く時間だから、静かにしないといけない」と自分の気持ちをそちらに向けます。そしてこの自己制御力というものは、発達過程の段階を踏んで培われる力なので、その前段階の発達において、子どもが自己主張を十分にでき、それを認め、受け止めてもらう経験が豊かであることで、初めて次の発達段階である自己を制御する力や我慢する力が身に付いていくのです。

発達の順序は逆転しないので、子どもが意見を言う前に大人が先回りして言ったり、良かれと思って子どもが言う前にやっちゃったり、子どもの言うことに耳を傾けずに親の思いで子どもに指示をしたりしては、子どもの自己主張力は育ちません。当然、自己主張がなければ、それを認めたり、受け止めたりすることはできませんので、自己制御力も育っていかないのです。

こういった発達の順序性やその過程を大人が十分に理解をし、皆で子どもの権利をしっかりと保障した「子ども真ん中社会」の実現に向かっていきたいと思っています。

今年度は6月に「保育・子育て講演会&給食試食会」を予定しています。講演をお聴き頂けたら、今まで以上に子どもとの関わりが楽しく感じられるようになると思います。また給食試食会当日のメニューは子どもから人気の高いメニューをご用意させて頂く予定です。詳細については後日、配信致しますので、もうしばらくお待ち下さい。

今月もどうぞ宜しくお願い致します。